

## 【パキスタン洪水災害救援】

診療情報管理課 無津呂 昌代

パキスタン・イスラム共和国（パキスタン）では、2010年7月下旬からモンスーンによる影響で集中豪雨が続き、洪水により国民の10分の1にあたる約2,100万人が被災しました。この洪水に対し、パキスタン赤新月社（パキスタン赤）は直ちに各地で被害調査を行うとともに、巡回診療の提供や、食糧・生活用品・テント等救援物資の配布を行いました。それと並行して国際赤十字も救援活動を支援するため、緊急救援要請を発表しました。

国際赤十字は、被害状況の調査を行う「フィールド調査・調整チーム」を召集し、その被害状況の調査結果に基づき、日赤からは1人目となる河合結子看護師がノルウェー赤十字社（ノルウェー赤）の基礎保健 ERU（Emergency Response Unit：緊急対応ユニット）派遣メンバーの一員として、8月20日から派遣されました。

その1週間後、日赤からは喜田たろう副チームリーダー、私を含む計7人の要員（副チームリーダー・医師・助産師・看護師・薬剤師・事務）が現地に派遣され、フランス赤十字社（フランス赤）の基礎保健・衛生 ERU 派遣メンバーとして活動を開始しました。

今回の派遣の特徴は、日赤としては初の試みとなる他国の ERU に参加しての活動となったことです。すなわち、ERU 資機材の提供など主となる社はフランス赤（チームリーダー・医師・看護師・水衛生専門要員・事務の計6名）で、そこに日赤の要員7名と、オーストラリア赤十字社（オーストラリア赤）の要員2名が参加した活動となりました。今回の私の業務は、連絡調整要員として首都イスラマバードに留まり、フランス赤、オーストラリア赤の要員の後方支援も行う必要があり、他国の要員との関わりの中で日赤要員との意識の違いや文化の違いを知ることができ、大きな学びとなりました。

到着の翌日には、イスラマバードから車で8時間程の距離にあるパンジャブ州ムルタンが活動場所として定められ、以降、順番に空路や陸路でムルタンへ向かう他要員の移動手段の手配や調整、現地までの宿泊の手配、IT機器の準備や現地携帯SIMカード手配や両替、日赤がレンタルする車の手配や調整を行う等、現地で要員が活動するために必要な支援を行い、その一方で、我々7名より遅れて入ってき



たフランス赤・オーストラリア赤の要員の出迎え、国際赤十字・赤新月社連盟への登録・セキュリティブリーフィング（活動場所やパキスタン国内の安全状況説明）の手配、フランス赤資機材の運搬に係る調整業務・彼らのムルタンまでの移動手段の手配や調整、現地までの宿泊の手配等を順次行っていきました。

私が派遣された2週間は、様々な事情によりムルタンでの活動を断念し、要員がさらに南にあるシンド州の活動場所の調査に出かける直前という時期でありましたが、続く2班がメハーという所を拠点に巡回診療し、そして既存の病院の母子保健強化に取り組んでおり、現在3班目の要員が活動を続けています。

今回、私自身は被災地を訪れることはできませんでしたが、避難民キャンプに暮らす被災地の方々の暮らしが一日でも早く元に戻るよう祈っております。